平成２３年度　熊谷市総合振興計画審議会の概要

Ⅰ　日時：平成２３年１０月１７日（月）午後２時～午後３時５５分
　　場所：熊谷市役所６０３会議室（東）



Ⅱ　次第
　１　開会
　２　委嘱状の交付
　３　市長あいさつ
　４　委員の紹介
　５　会長の選出
　６　議事
　　⑴　総合振興計画の推進について
　７　閉会

Ⅲ　委員　　（敬称略）

	氏　名	選　出　団　体	備 考
第１号	礒﨑　　修	熊谷市議会	会長
	山田　忠之	熊谷市議会	
第２号	森田　美江	熊谷市教育委員会	
	岡部　文仲	熊谷市農業委員会	
	木島　一也	熊谷商工会議所	副会長
	福田　征芳	くまがや農業協同組合	
	齋藤　洪太	熊谷市医師会	（欠席）
	根岸　一雄	熊谷市自治会連合会	
	栗原　　尭	（社福）熊谷市社会福祉協議会	
	矢野　美登里	熊谷市文化連合	（欠席）
	佐藤　恒夫	（財）熊谷市体育協会	
	栗原　　優	熊谷市ＰＴＡ連合会	
	飯田　ヒサ子	くまがや共同参画を進める会	
	森田　俊和	（社団）熊谷青年会議所	（欠席）
	矢嶋　隆男	「連合埼玉」熊谷・深谷・寄居地域協議会	（欠席）

説明者　総合政策部長、企画課長、企画課職員

Ⅳ　会議の概要

司会者：総合政策部長

１　開会

会議の概要を公開させていただくことの承認

会議資料の確認、欠席者の報告

２　委嘱状の交付

富岡市長から委嘱状を交付



３　市長あいさつ

４　委員の紹介

５　会長の選出

会長　礒﨑　修 熊谷市議会議長

６　議事

⑴　総合振興計画の推進について（説明：企画課長）

ア　成果指標の実績値及び進ちょく状況一覧表（資料１）についての質疑等

（委　員）　成果指標の進捗状況をみると、約 70%が「順調」又は「おおむね順調」となっている（ｐ11）。これは、良好な進捗率だと思うが、他市と比較するとどうか。

（事務局）　総合振興計画に成果指標を設定したのは本市としては初めての試みであり、他市においては成果指標を設けていない場合もあって、現時点では、他市の状況は把握できていません。今後の検討課題としたいと考えます。

（委　員）　2-3-4「市民活動団体の登録数」（ｐ1）とは、どこで把握している数か。市民活動支援センターでの登録数か、市民活動推進課での登録数か。

（事務局）　市民活動推進課で登録している数です。

（委　員）　2-6-9「男女共同参画が進んでいると思う市民の割合」（ｐ2）が半数近い（44.1%）が、実際はもっと低いのではないか。

（事務局）　アンケートによって得た「感覚的」な数値であるので、とらえ方によって違う解釈もできると思います。

（委　員）　1-1-1「「雪くま」を知っている市民の割合」（ｐ1）は高い割合（84.1%）を示しているが、熊谷市民に聞けば「雪くま」を知っているのはある意味当然であって、この成果指標が含まれる施策で

ある「全国に発信できる特色をつくる」の趣旨からいえば、市外の人における認知度を指標にすべきではないか。

また、総合振興計画において最も重要なのは、「人口増プロジェクト」であって、その成果指標等状況を示す指標を設定すべきではないか。10 月 1 日現在で昨年と比較すると、人口は約千人減少しており、目標 23 万人はおぼつかない。

ほかにも指標の改善案として、例えば、3-12-21「救急救命士の数」（ｐ3）を設定しているが、むしろ救急車での搬送時間をどれだけ短くできたかといったようなものを指標化すべきではないか。1-2-2「入込観光客数（暦年)」（ｐ1）についても、ただ来たというだけでなく、観光客によって商店街等がどのくらい潤ったかといった点も指標化できると良いと思うが。

（事務局）　これらの指標は、市民会議における御意見も参考に、審議会において承認をいただいて設定したものです。しかし、成果指標を設けること自体初の試みであり、御指摘のように改善すべき点は多々あると思いますので、御意見については、今後の計画策定に生かしてまいりたいと思います。

なお、観光客の市内回遊という点について一例を申し上げますと、今年度から、スポーツ観戦に訪れた観光客を対象に、スポーツ文化公園から聖天山ほかの観光スポットを巡る観光バスを出すなどして、市内観光の促進等を図っているところです。

（委　員）　熊谷に来た方が「また来たい」、「住んでみたい」と思わせるようなまちづくりを進めてほしい。

イ　市民生活の現状および満足度についてのアンケート調査報告書（資料 2）についての質疑等

（委　員）　災害が少ないというのが、地味ではあるが熊谷をアピールできる点の一つであると思う。他所から移り住んだ方からもそう言われる。

（事務局）　おっしゃるとおりだと思います。ただ、時節柄、アピールの仕方には工夫が必要になると思います。

（委　員）　問３「市政への関心」（ｐ7）について、「大変関心がある」と「関心がある」の合計が 60%になっているが、今年の市議選の投票率（50.44%）はここまでいっておらず、やや不一致が見られる。この調査の項目を変更する予定はないか。

（事務局）　経年比較の観点から、少なくとも、現在の総合振興計画の期間中の変更は難しいと思います。

（委　員）　施策の重要度の第２位に「医療体制の充実」（ｐ12）が挙がっているが、現状に満足していないから充実してほしいということなので、アンケートを取るだけで終わらず、行政の施策に反映できるようにしてほしい。“子育てするなら熊谷市”の言葉にふさわしい小

児医療の充実をはじめ、医療体制の充実を図ってほしい。

（委　員）　「地域防災計画を知っている」市民の割合や「避難すべき避難場所を知っている」市民の割合（ｐ11）は低下傾向にあり、懸念される。

（事務局）　おっしゃるとおりだと思います。ただし、今回の調査は、東日本大震災の前に行っていますので、次回調査に震災の影響がどう出るかには注目しています。また、3-9-14「自主防災組織組織率」（資料１のｐ2）は向上していますので、そのような場を通じて、啓発に努めてまいりたいと考えます。

ウ　平成 22 年度（平成 23 年度評価）事務事業一覧表（資料３）及び事務事業評価外部評価対象事業の結果一覧（資料４）についての質疑等

（委　員）　「高校女子サッカー大会（めぬまカップ）事業」（資料３のｐ1№3・資料４の№1）について、「なでしこジャパン」のメンバー7人もかつて参加していた大会であり、スポーツ文化都市を目指す熊谷の知名度の向上、スポーツ振興の起爆剤、さらには、観戦者も含めて商業・観光振興にもつながる可能性もあるので、是非大きく改善してほしい。

（事務局）　春休み合宿として妻沼町当時に始まったという経緯もあり、地元である妻沼地区の方も思い入れも強く、さらに、同じ時期にラグビーの選抜大会がある関係で、市内の宿泊施設はラグビー関係者で埋まってしまうため、サッカー関係者は太田市で宿泊という事情もあり、せっかくの大会を十分に市内に引き込み切れていないという状況があります。現在、関連団体と改善に向けた調整を行っているところです。

（委　員）　行政だけでできることではないが、大会の位置付けのような行政でできることは急いで進めてほしい。

（事務局）　先程申し上げたような経緯があるため、急に変えるのは難しい部分もありますが、本来実行委員会主導であるべきこの大会をオーソライズできるように努力してまいりたいと考えます。

（委　員）　「同和対策事業振興補助事業」（資料３のｐ2№31・資料４の№4）は、補助金削減の方向で改善ということだが、削減率等の数値目標はどのくらいか。

（事務局）　担当課において運動団体と交渉の上、削減率等を決めていくため、具体的数値は決まっておりません。

（委　員）　「母子家庭自立支援給付事業」（資料３のｐ6№170）の総合評価が「縮小」となっているがなぜか。

（事務局）　この事業の中に、母子家庭の母が資格取得のため看護学校等に通う場合に一定期間支給を受けられる高等技能訓練促進費という制度がありますが、その支給期間が、本来は、学校に通う期間の後半

２分の１だけを対象にしていましたが、数年間に限り、特例的に全期間を対象として支給されていました。その特例期間が終了し、元の後半２分の１の期間に戻ったという意味での「縮小」ということです。

（委　員）　「深谷赤十字病院拡充整備補助事業」（資料３のｐ6№224）は総合評価「継続」とのことだが、金額も同程度で継続ということか。

（事務局）　平成24年度は、18,334千円（23年度も同程度）の見込みです。なお、本事業自体は、24年度をもって終了の予定です。

（委　員）　「シルバー人材センター推進事業」（資料３のｐ12№331・資料４の№17）について、民業圧迫のおそれはないか、住み分けはできているのか等は、外部評価委員会で議論されたのか。

（事務局）　外部評価委員会では、主にセンターへの補助金の交付についての議論がなされ、本来の目的である高齢者の生きがいを重視すべきとの意見はありましたが、民業圧迫、民間との住み分け等については、議論はありませんでした。

７　閉会